

# 4 社会との協調

## 1. くじゅう坊ガツル湿原<sup>ぼう</sup> ー帯における環境保全活動と社有林を活用した体験型の環境教育

### くじゅう坊ガツル湿原<sup>ぼう</sup> ー帯における環境保全活動

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた高原性の湿原(約53ヘクタール)です。多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することなどから、2005年に国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

地域環境との共生を目的に、2000年から16年間にわたり、環境省や竹田市、「九重の自然を守る会」などの地域の方々との協働で、坊ガツル湿原の生態系を保全するための「野焼き活動」を実施しています。この取組みにより、2014年の「阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念式典」において、環境省九州地方環境事務所長表彰を受けました。

また、坊ガツル湿原の外部から持ち込まれた外来種(植物)の駆除活動や、貴重な自然環境を活用した次世代層への環境教育のほか、隣接する平治岳(当社社有地)においても、近年衰退傾向にある「ミヤマキリシマ」の保護や登山道の整備活動を実施しています。

#### ■ 野焼き活動

かん木や雑草が茂ることを防ぎ、植物の新しい芽立ちを促すことで、湿原の環境を維持する野焼き活動を実施しています。

2015年度は、3月26日に実施し、当社社員を含む113名のボランティアの方々に参加いただきました。



野焼きの様子



炎が広がる様子

#### ■ 外来種(植物)駆除活動・次世代層への環境教育

湿原の生態系を維持するため、外来植物を手作業で除草しています。

2015年度は、8月4日に実施し、当社社員や家族を含む33名のボランティアの方々に参加いただきました。

また、作業終了後には、活動に参加した子どもたちを対象に自然観察会を開催しました。



外来種(植物)駆除の様子



自然観察会の様子

#### ■ ミヤマキリシマの保護・登山道整備活動

ミヤマキリシマ(大分県準絶滅危惧種)の植生に支障となる木(ノリウツギ等)を伐採し、生物多様性を保全するための活動を実施しています。

2015年度は、11月12日に実施し、当社社員やOBを含む94名のボランティアの方々に参加いただきました。



ミヤマキリシマ保護活動の様子



平治岳に咲くミヤマキリシマ(6月頃)

### >>私の環境アクション

春にピンクの<sup>じゅうたん</sup>絨毯が見られることを願って、活動に参加しました

立地本部 再生可能エネルギー・内燃力立地グループ

あまもと みき  
天本美希



2015年11月、くじゅう坊ガツル湿原<sup>ぼう</sup> ー帯における環境保全活動のボランティアに参加しました。当日は、地域の自然保護団体や環境省などの方々と一緒に、ミヤマキリシマの生育に支障となる木々の伐採を行いました。初めての経験でしたが、春に見られる一面のピンクの絨毯を想像しながら楽しく参加することができました。

2016年5月末に平治岳に登った時には、ミヤマキリシマがとても綺麗に咲き誇っていました。ボランティアの成果の表れだと思えば、とても嬉しかったです。これからもぜひこの活動に参加したいと思います。



作業後の集合写真

用語集をご覧ください

>>社有林  
>>生物多様性

>>生態系  
>>絶滅危惧種

社外ステークホルダーのご意見

地域と連携した活動は、今後とても重要になると感じる。

▶ P 32～33 坊ガツル湿原一帯における環境保全活動と社有林を活用した環境教育

## 社有林を活用した体験型の環境教育

当社は、大分県を中心に4,447ヘクタール(福岡ヤフオクドーム約630個分)の社有林を保有しています。この豊かな自然環境を活用し、グループ会社の九州林産(株)等と協力しながら、体験型の環境教育を行っています。

「林業体験」では、子どもたちが森を守るために必要な間伐<sup>かんぱつ</sup>や枝打ち、植樹などを体験し、「森林観察」では、大分県の「次世代の大分森林づくりモデル林」に指定された森の見学や、様々な植物を観察します。また、「木工教室」では、社有林の間伐材を活用し、えんぴつや木の黒板づくりに挑戦できるなど、子どもたちの環境への気づきにつながる様々なプログラムの提供に努めています。

### >>私の環境アクション

子どもたちの目の輝きを励みに、  
社有林の環境価値を一生懸命  
伝えています

九州林産(株)林業部  
森林経営グループ

さか い ひろし  
酒井 宏



九州林産(株)では、九州電力社有林にある山下池周辺(大分県由布市)に「環境活動の場」を整備し、九電みらい財団とともに、次世代層を中心とする環境学習に取り組んでいます。

実施にあたっては、社有林管理で培った環境保全技術と、都市公園等公共施設の運営・管理業務におけるイベント開催などで習得した「自然を学び楽しむノウハウ」を最大限に活用し、地球温暖化の現状や適正に管理された森林の働き(水源涵養機能・CO<sub>2</sub>抑制効果・防災機能など)に関する講話とともに、間伐体験や希少植物の自然観察会などのフィールドワークを組み合わせることを心掛けています。

参加した子供たちは、講話で学んだ事を実際に見て体験することで、楽しみながら理解を深めており、「また参加したい」との声もいただきました。

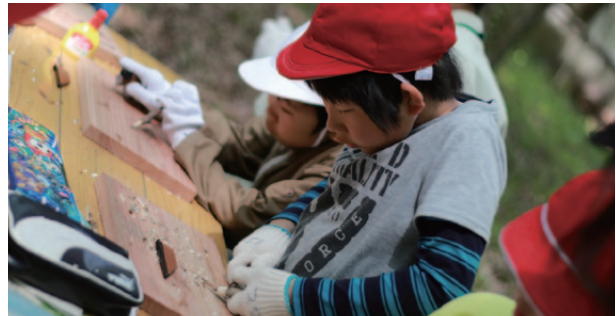
今後も本活動を通じて、社有林の環境価値や環境保全への理解促進に努めていきます。



「林業体験」の様子



「森林観察」の様子



「木工教室」の様子

## 「九電みらい財団」の設立

地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する活動を更に充実させるため、「環境活動」と「次世代育成支援」を行う「九電みらい財団」を2016年5月に設立しました。

今後は、本財団が「くじゅう坊ガツル湿原一帯における環境保全活動」や「社有林を活用した体験型の環境教育」の主体となり、活動内容の充実を図るとともに、地域の諸団体の皆さまが実施する次世代育成支援活動に対して、助成を行っていくこととしています。

九電みらい財団のホームページは[こちら](#)

>>地球温暖化

用語集をご覧ください